

ユーザーにご満足いただけるような

品質維持を目指す

サンコーマーク工業 株式会社



サンコーマーク工業株式会社



サンコーマーク工業 株式会社

代表取締役：古澤 良江 氏
 本社：大阪府東大阪市若江本町2-4-10
 創業：1964年（昭和39年）3月
 社員数：22名（令和元年9月現在）
 事業内容：転写マークの企画・製造・販売



半世紀にわたり、転写マークを製造しているサンコーマーク工業株式会社。プラスチック模型のパーツ、またスポーツ用品の加飾用など、さまざまな分野で使用されており、高品質な製品を提供している。今回は、代表取締役の古澤氏に創業の歴史から、同社が今日まで信頼を得ている背景、そして、今後の事業展開について伺いました。

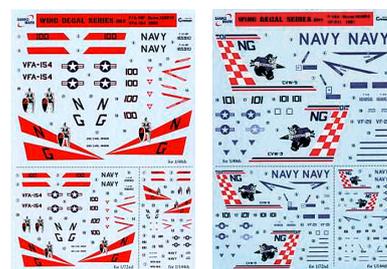
— 模型素材の移り変わりにより 誕生した転写マーク

当社の創業は、1957年1月に父の高松将、伯父の高松米太郎が共同で事業を始めました。創業当初は、伯父が工業デザイナーをしており、農業機械、運搬具、マシンなど、工業用の転写マークを製作していました。その後、工業用のみならず、木製テニスラケットや、バドミントンラケットなど、スポーツ用品の転写マークの製作もしてありました。このスポーツ用品の転写マークは、ラケットが木製からカーボン製へ移行するタイミングでなくなりました。

当社の今の主力製品の模型用の転写マークが生まれたきっかけは、叔父の高松守が会社（株式会社OK模型）を設立したことです。当時の日本は木製模型しかありませんでしたが、アメリカでプラスチック製品模型が開発され日本にも輸入されました。これに対抗し日本でも「プラスチックの模型を製作するには、転写マークが必要」となり、当時飛行機の模型を製作していた叔父を介して当社へお声がかかりました。この話のおかげで当社主力の転写マークが生まれました。

— 60年積み重ねてきた信頼

当社の現在の主力製品は転写マークとステッカーです。転写マークは前述の通り模型に使用されます。



同社が手掛ける転写マーク

印刷業界は、印刷という広い括りですぐと同業者は多いのですが、転写マークの製造となると同業者は多くありません。パンフレットやチラシなどの印刷と転写マークの印刷では、印刷技術が全く違います。どちらの印刷も相当な技術が必要です。両方やっている企業はないと思います。

当社は、創業から転写マークに力を入れ、60年ほど経ちました。おかげさまで、多くの玩具メーカーとお取引させていただけるまでになりました。この背景には、地道な品質改良を続けてきたからだと思います。

品質改良をするにあたり、当社は年に一度、お取引企業様にアンケート調査を実施しています。希望、問題点の聞き取りをし、問題があればすぐに改善しています。この積み重ねのおかげで信頼をいただけていると自負しています。

— B to BからB to Cへの展開

転写マークは、景気にあまり左右されません。そのため、昔から売り上げ

■高品質を生み出すために、徹底した清掃と改善活動

毎日5分間清掃を全社員でおこない、清潔に整った作業環境を維持するよう心がけている。また、継続した改善活動を続けており、改善された個所は5年間で総数300件以上。技術を向上させることも求めているが、それ以上にその能力を支える心の持ち方を当社では大切にしている。



が大幅に伸びることがありませんし、減ることもありません。安定しているのですが、それでは会社の成長はありません。現状に満足はできません。

私が社長に就任した際、取り組んだのは B to C 向けの製品の開発です。開発に至ったのは会社を成長させるため、そして、一番の要因である、使用者の喜びを感じたかったからです。そこで当社は、「Haus gida」というオリジナルブランドを立ち上げました。



「Haus gida」のウォールステッカー

「Haus」はドイツ語で家、「gida」はギリシャ語でマークという意味です。取り扱っている製品は、ウォールステッカーとガラス専用ステッカーです。

立ち上げ当初は私が一人で企画から運営をしていましたが、徐々に営業やデザイン、写真撮影の担当が加わり、チームとして運営を始めました。チームで運営することで、従来の営業とは違ったアプローチができます。その結

果、今では大手通販様やインテリアショップ様ともお取引いただいています。将来的には「Haus gida」も会社の軸にしていきたいと思っています。

—社員の人となりを理解し、 組織の活性化を図る

当社では、従業員の育成と職場環境の整備に力を入れています。

人材育成の面では、会社の管理職を対象に「エニアグラム」を活用しています。職位が上がれば、自分自身を深く理解していくことが重要になります。管理職には「エニアグラム」の研修を2年間受けていただいています。研修を受けることで、人々との関係においても気楽にかかわることができるようになり、そこから自身の精神的な健康にも役立っています。

職場環境の整備では、今年から製造工場を2拠点にしました。いつ何時、自然災害に合うかわかりません。お客様の信頼を損なわないためにもBCP対策を万全にしています。

他にも、クラウド型ソフトを使用する環境と、ネットから完全に遮断された環境の両方を備え、安全な IT 環境を整備しています。

—社長の想い

今後の事業展開については、とにかく要求された仕事は忠実に再現する「受注生産」と「自社ブランド」の2

本柱で事業を進めていきます。前者では品質を突き詰めてお取引企業様、エンドユーザー様に満足していただける製品づくりをしていき、後者では生活を楽しむ方へ、技術力や提案力、デザイン力のある自社商品を開発していきたいと思っています。



私自身の今後は、お取引企業様やエンドユーザー様のお役に立つことはもちろんですが、もっと社会の役に立てるようになりたいと思っています。そのため、障がい者の方への就労の機会を提供できるようにしたいと思っています。どのような組織になるかはまだ未定ではありますが、私が60歳になるまでに形にしたいと思っています。今、福祉関係の資格取得のため勉強中です。いざ就労機会を設けるときに、困ることがたくさんあると思いますので、今から資格を取り、準備を進めています。

—貴重なお話をいただき、 誠にありがとうございました